



## アジア原子力協力フォーラム(FNCA)人材養成プロジェクトの 「原子力公開シンポジウム」が福井で開催される

平成21年6月22日(月)  
福井県国際交流会館

このシンポジウムは、エネルギー需要の伸びが想定されるアジアでの国際交流の活発化、原子力の平和利用や人材養成への貢献を目的に行われたもので、町末男 FNCA 日本コーディネーターの特別講演を含む4講演、日本に滞在して研究したアジアの2研究者の講演、パネル討論が行われました。

エネ研からは、山本和高粒子線医療研究室長による講演「陽子線がん治療のアジアへの普及と人材育成に向けての福井地区に期待される役割」や来馬克美専務理事のパネル討論、ベトナムからの研究者のレさんの講演を行いました。



上)パネル討論風景(左端がレさん)

レ・ゴック・チュウ(LE Ngoc Trieu 略称レさん)は、ベトナム原子力委員会工業用原子力技術応用センターから昨年10月に来日し、エネ研でこの6月まで放射線育種を学びました。

日本滞在中に扱った植物は、キク科のチトニアやカモミールなどで、炭素線、エックス線、ガンマー線を葉の組織や種などに照射しており、ベトナムに持ち帰り引き続き品種改良などの仕事を継続する予定とのこと。

なお、本年9月からは、スリランカ・米研究開発研究所からKUMARARATHNAさんが研究員として来年6月までエネ研で研究を行う予定です。



上)「農業育種研究」を講演中のレさん

左)放射線の照射量と植物の成長量の関係についての実験結果を示すスライド



エネ研で植物育成の作業をするレさん

私の研究成果は、若狭湾エネルギー研究センターの研究に比べれば大変小さいものですが、ここでの体験によって、大変多くのことを学びました。

それは、原子力安全の分野での手法や技術、放射線利用施設とその利用の仕方、放射線育種のための基礎理論と実習で、私に対してオープンに提供していただきました。

私の放射線育種の知識はレベルアップできました。この知識は私に大変有用で、ベトナムへ帰って放射線育種を安全に効率的に行うことができ、役に立てられます。

私は、今後母国のベトナムの研究機関と若狭湾エネルギー研究センターで近い将来に良好な研究協力関係が培われることを期待しています。

原子力公開シンポジウムでのレさんの最後のメッセージ

## 小学生がエネ研でエネルギー学習をしました

7月7日に美浜東小学校の6年生18名が、エネ研で新エネルギーの学習をしました。新宮研究顧問からエネルギーとは何かを実験と豊富な事例で紹介した後、梅雨空のわずかな雲間について、屋外で太陽光による加熱実験ができました。この後、屋外での新エネカートの学習を行い、質疑時間を持ちました。太陽電池の原理など積極的かつ少々難しい質問も行われ、この日のエネ研での学習を終えました。エネ研では、この他にも小・中・高校とエネルギー学習の支援スケジュールがあり、実施していきます。



太陽・燃料電池をエネルギー源として走行するカートの原理説明と試乗。



エネルギー学習支援スケジュール予定		
7月7日	美浜東小	新エネルギー学習
7月14日	社中学校	太陽エネルギー学習(SPP)
7月29日	彦根東高校	SSH
7月29日	敦賀高校	SPP
8月10日	社中学校	太陽エネルギー実習(SPP)
8月19日	武生高校	SSH
11月4日	高志高校	SSH

※ SSH：スーパーサイエンスハイスクール SPP：サイエンスパートナーシッププロジェクト

上) 10kW大型太陽炉  
右) はんたか(1kW超)

実験内容は、鉄や岩石の溶融、合成ルビーの作成、卵の調理など。



どの実験も生徒と先生の歓声の中、実施しました。

手の熱でガラス容器の中のエタノールが膨張し、熱がエネルギーにもなる実験

## 産学官連携推進会議に出展

6月21日～22日に第8回産学官連携推進会議が国立京都国際会館で開催され、約4,500名の参加者がありました。エネ研でも、ヒートパイプ、低収縮性越前和紙製金屏風、梅エキス製品等の産学官連携の事例を紹介しました。



低収縮性越前和紙製の金屏風  
10月より販売予定。



若狭の紅映梅を用いた梅エキス利用試作品。11月より販売予定。

## 職員交代

前任

後任

エネルギー研究開発  
拠点化推進組織  
所長代理



野坂 明信



三木 安孝

エネルギー研究開発  
拠点化推進組織  
技術支援・相談チームマネージャ



佐谷 禎



中尾 治生

